

ジョセフ・スミス——回復の預言者

七十人

タッド・R・カリストアー

ジョセフ・スミスを通して、救いと昇栄に必要なすべての力、鍵、教え、儀式が回復されました。

新約聖書のある登場人物について、次の3つの事実しか知らされなかったとしましょう。第1に、救い主がこの人物に声をかけ、「信仰の薄い者よ」と言われたこと（マタイ 14 : 31）。第2に、この人物がかつとなって大祭司の僕の耳を切り落としたこと。そして第3に、日々主とともに歩んでいたにもかかわらず、3度救い主を知らないと言ったことです。知っているのがこのことだけであったとすれば、あるいはこのことばかりに目を向けるなら、わたしたちはこの人のことを、役に立たない大悪人だと考えてしまうかもしれません。しかしそれでは、歴史上最も偉大な人物の一人について知る機会を逃してしまうことでしょう。その人物とは使徒ペテロのことです。

同じように、預言者ジョセフ・スミスのささいな弱点にばかり目を向け、それらを誇張しようとした人もいました。そのため、彼らも大切なものを見逃してしまいました。それは、ジョセフという人間と彼の使命です。ジョセフ・スミスは、地上にキリストの教会を回復するために主に油注がれた人でした。森を出たジョセフは、やがて、当時のキリスト教界でほとんど教えられていなかった4つの基本的な真理を学びます。

まず、ジョセフは父なる神と御子イエス・キリストが別個の独立した御方であることを知りました。聖書には、御子が御父の御心に従われたことが書かれており、ジョセフ・スミスの得たこの知識を裏づけています（マタイ 26 : 42 参照）。わたしたちは救い主の従順さをたたえ、同じように従順であるための力を、救い主の模範に見いだしています。しかし、もし御父と御子が同じ御方であって、実は、御子は異なる名の下で、御自分の意思に従っておられたただけであったとしたらどうでしょう。キリストの従順さにはどれほどの情熱がこもっていたのでしょうか。主の模範はわたしたちの心を動かす力となったのでしょうか。

聖文はさらに、この偉大な真理を裏づけています。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。」（ヨハネ 3 : 16）たった一人の息子をささげる父親。これは、人類の考え、感じ得る愛を最高の形で表しています。それは、アブラハムとイサクの感動的な物語に象徴されています（創世 22 章参照）。しかし、もし御父と御子が同じ御方だとしたら、この最高の犠牲は犠牲ではなくなってしまいます。アブラハムは、もはやイサクを犠牲にささげるのではなく、アブラハム自身をささげることになってしまうのです。

ジョセフ・スミスが学んだ偉大な真理の2つ目は、御父と御子が栄光を受けた骨肉の体を持っておられるということです。復活した救い主は弟子たちに現れ、こう言われました。「さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。」（ルカ 24 : 39）この肉体による現れは一時的なものであり、主は天に昇られたときに肉体を捨て、霊の

形に戻られたのだと言う人もいます。しかし、聖文によるとそれは不可能なのです。パウロは、「キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを、知っている」と教えました（ローマ6：9）。つまり、キリストの体は、御自身が復活された時点で再び霊と分かれることができなくなったのです。そうでなければ、主の復活後にはあり得ないとパウロが言った死という結果を、主御自身が再びお受けになることとなります。

ジョセフ・スミスが学んだ3つ目の真理は、神が今も人に語りかけておられ、天は閉じられていないということです。かつてヒュー・B・ブラウン管長が提示した3つの質問を自問すれば、おのずとこの結論に行き着くでしょう（「預言者の特徴」『リアホナ』2006年6月号、10参照）。第1、神は新約聖書の時代に語りかけられた人々を愛されたと同じように、現代の人々を愛しておられるでしょうか。第2、神は当時と同じ力を現代にも持っておられるでしょうか。そして第3、わたしたちは今、昔の時代の人々と同じように神を必要としているでしょうか。この3つの質問の答えがはいであって、聖文が宣言するように、神が昨日も、今日も、とこしえに変わらない御方であるなら（モルモン9：9参照）、疑問の余地はまったくありません。ジョセフ・スミスが証したとおりに、神は今も人に語られるのです。

ジョセフ・スミスが学んだ4つ目の真理は、当時イエス・キリストの完全な教会は存在しなかったということです。もちろん、善良な人々や部分的な真理は存在しましたが、十二使徒の死に伴い、キリストの教会は完全さを失ってしまったのです。「まず背教のことが起〔らなければ〕」キリストの再臨はないという使徒パウロの預言が、この真理を裏づけています（2テサロニケ2：3）。

ジョセフ・スミスの最初の示現の後、「教訓に教訓、規則に規則を加え」られながら、キリストの教会の回復が始まりました（教義と聖約98：12）。

ジョセフ・スミスを通し、地上で福音を聞く公平な機会のなかった人に霊界で福音が宣べ伝えられるという教義が回復されました（教義と聖約128：5-22参照。138：30-34も参照）。これは創造力の産物ではありません。聖書にある真理の回復なのです。遠い昔、ペテロはこう教えました。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」（1ペテロ4：6）イングランド国教会の著名な作家で神学者だったフレデリック・W・ファーラーは、ペテロのこの教えについて次のような見解を述べています。「この聖句が明白に意味することを無にしようと、あらゆる努力が払われてきました。これは聖文の中で最も貴重な聖句の一つであり、そこにあいまいさは一点もありません。……この言葉に意味があるとすれば、その意味するところは、キリストの霊が下位の世界に降りて行き、かつて悔い改めなかった死者に対して救いのメッセージを宣べ伝えられたということです。」（*The Early Days of Christianity*, [1883年], 78）

多くの人が天は一つ、地獄は一つだと教えています。ジョセフ・スミスは複数の天が存在するという真理を回復しました。パウロは第3の天にまで引き上げられた人について語りました（2コリント12：2参照）。第2あるいは第1の天なくして第3の天があり得るでしょうか。

イエス・キリストの福音は、多くの意味で 1,000 ピースのジグソーパズルと似ています。ジョセフ・スミスが登場した時点で、恐らく 100 ピースが正しい位置にはめられていました。その後、ジョセフ・スミスが残りの 900 ピースの多くを正しい位置にはめたので、人はこう言えるようになりました。

「自分がどこから来て、なぜここにいる、ここからどこに行くのか、ようやく分かった。」回復におけるジョセフ・スミスの役割について、主ははっきりとこう定義されています。「この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける。」（教義と聖約 5：10）

このように聖書の真理が次々と回復されていても、真理を求める正直な人たちの中にはこう言う人もいます。「教義は受け入れることができますが、ジョセフ・スミスが見たという天使や示現はどうでしょうか。現代ではどうてい信じ難いことに思えます。」

そのような正直な心で探究する人に、わたしたちは愛をもって答えます。

「新約聖書のキリストの教会で、天使の訪れや示現はなかったでしょうか。マリヤとヨセフに天使は現れなかったでしょうか。変貌の山で天使はペテロ、ヤコブ、ヨハネに現れなかったでしょうか。天使はペテロとヨハネを牢から救わなかったでしょうか。コルネリオにも、そして船で難破する前のパウロにも、パトモスという島にいたペテロにも、天使は現れなかったでしょうか。ペテロは異邦人に福音が伝わるという示現を見なかったでしょうか。示現の中で、パウロは第 3 の天を、ヨハネは末日を、ステパノは御父と御子を見なかったでしょうか。」

そうです。ジョセフ・スミスは確かに天使と示現を見たのです。それは、神の御手に使われる者として、すべての権能とすべての教義を備えた、初期のイエス・キリストの教会と同じ教会を回復するためでした。

しかし、悲しむべきことに、時として、ジョセフ・スミスによって回復された貴い福音の真理を自ら捨てる人がいます。それは、その人たちが自分の昇栄に直接関係のない歴史上の問題や、科学的な憶測に目をくらまされているからです。そうした人は、つまらないもののために霊的な生得権をたった 1 杯のあつものと交換しています。回復という絶対的な事実を疑いに置き換え、その結果、ほんの幾つかの事柄が分からないからと言って、**確かに知っている**多くのことへの信仰を失うというわなに陥ってしまうのです。信仰が必要とされるかぎり、知力に限界があるかぎり、知識面から信仰を失わせようとするような危機は起こり続けるでしょう。しかし、それと同じように、確かに堅固な回復の教義も常に存在します。しっかりとつかまっていることで、この教義は、証を築く岩の土台となってくれるでしょう。

多くの弟子たちが離れて行った後、主は使徒たちに向かい「あなたがたも去ろうとするのか」と尋ねられました。

そのときのペテロの答えは、一人一人の心に刻むべきものです。「わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。」（ヨハネ 6：66-68）

これらの回復の教義に背を向ける人は、あの森で教えられた神の真の属性についてどこで知るのでしょうか。前世、死者のためのバプテスマ、永遠の結婚の教義をどこで見つけるのでしょうか。墓を越えて夫、妻、子供を一つにする、結び固めの力をどこで見いだすのでしょうか。

ジョセフ・スミスを通して、救いと昇栄に必要なすべての力、鍵、教え、儀式が回復されました。世界のどこに行っても、これらを手にするのできる場所はありません。ほかのどの教会にも存在しません。どんなに知的価値があると思える人の哲学、科学の本や、巡礼にも見いだすことはできません。救いは、主御自身が定められたとおり、一つの場所にしかないのです。主は、これこそ「全地の面〔における〕唯一まことの生ける教会」であると言われました（教義と聖約 1：30）。

ジョセフ・スミスが、自らが主張したとおり、回復の預言者であったことを証します。あの感動的な賛美歌の歌詞を繰り返します。「たたえよ、主の召したまいし 主と語りし預言者を」（「たたえよ、主の召したまいし」『賛美歌』27番）イエス・キリストの御名により、アーメン。